

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の同集団経年比較の結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。 (R5年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において全国平均を上回る。)	⇒ 金曜朝の時間に基礎学力パワーアップタイムを実施し、「ドリルパック」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復習熟に取り組ませる。その際、月初めの金曜朝に児童自ら学習履を確認させ、個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の同集団経年比較の結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。 (R5年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。)	⇒ 児童が課題に対して作品やレポート等に取り組む際、評価の観点を示した上で、ふり返しシート等を活用して、定期的に進捗状況を確認しながら、児童の思考したプロセスを評価していく。また、学校課題研究(体人権教育)を通して、協働的な学習の場における伝え合い方等の基本的なスキルの指導を行うことで、表現力の向上を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4年度の93%から95%以上にする。	⇒ 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、児童ともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解を行う場面の設定を行う。さらに、授業の終末には必ず自ら振り返りを行う時間を設定する。

次年度に向けて
(3月)

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	
思考・判断・表現	職員会議・校内研修等	
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	・国語の平均正答率は昨年度と比較して、+0.3ptである。内容や領域ごとの平均正答率では、「言葉の特徴に関する事項」が80%と昨年度と比較して+3.3ptで最も高く、「情報の扱いに関する事項」は72.7%に留まり最も低い。 ・算数の平均正答率は昨年度と比較して、+0.9ptである。より一層、知識・技能の定着に向け、繰り返し学習に努める。
思考・判断・表現	・国語の平均正答率は昨年度と比較して、+1.7ptである。内容や領域ごとの平均正答率では、「話すこと・聞くこと」が5.3%と昨年度と比較して+4.3ptで最も高く、「書くこと」は33.3%に留まり最も低い。 ・算数の平均正答率は昨年度と平均して、-3.2ptである。より一層、思考・判断・表現の定着に向け、特に算数話し合い活動等の協働的な学習の充実を努める。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は93.8%で目標値の95%に、1.2pt達しなかった。よきとも主体の学びとなるよう授業改善に努める。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ さらに、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、自ら思考する場面の設定を充実させる。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し

反映

年度末評価
(2月)

結果提供(2月)



一
更
歴

し
が
育
本

と
決
を
り
を

や使い方に
まった。
等の充実に

くこと」が8
数における

ましたか」
り一層、子

一
更
歴